

1 調査趣旨

地球上には1千万種にも及ぶ多様な野生生物が存在するといわれているが、人間の活動によって、これまでにないほどの速さと規模で種の絶滅が進んでいる。あらゆる野生生物の種を絶滅から守っていくことは、生物多様性の保全から見ても、野生生物の持つ様々な価値を守るうえからも緊急の課題である。

また、野生生物の生存基盤である地形や地質、これらと野生生物の総体である自然生態系も、生物多様性の保全を進めるうえで重要な要因であり、総合的な取組が課題となっている。

このため、京都府では、府内における絶滅のおそれのある野生生物種や保護を要する地形・地質・自然現象、自然生態系の現状やその保全対策を複合的に把握し、府内の生物多様性を保全する施策の基礎的データとして活用するため、1998年から2001年にかけて京都府レッドデータ調査を実施し、それらを取りまとめて2002年に初の京都府レッドデータブック2002を発刊した。

その後、10年余りが経過し、府内の生物多様性をとりまく状況も大きく変化したことから、2011年から絶滅のおそれのある野生生物種について、レッドリスト見直しのための調査を開始し、2013年に京都府レッドリスト改訂版（野生生物編）を公表した。あわせて2013年から地形・地質のほか、地域生態系や人間－環境系の歴史的側面の調査を開始し、2002年版のすべての分野をカバーし、2015年に第2版となる京都府レッドデータブック2015を発刊した。

その後、2019年から分類群ごと2～3年の調査を開始し、2021年（京都府改訂版レッドリスト2021）に哺乳類、鳥類を公表し、以降、2022年（京都府改訂版レッドリスト2022）にシダ植物・種子植物、2023年（京都府改訂版レッドリスト2023）には虫類、両生類、淡水魚類、コケ植物、2024年（京都府改訂版レッドリスト2024）に昆虫類、クモ類、菌類、2025年（京都府改訂版レッドリスト2025）に陸産貝類、淡水産貝類、その他淡水産無脊椎動物、海産無脊椎動物、地形、地質、地域生態系、を公表した。それらの結果を取りまとめ、レッドリスト公表時点から状況の変化があったものはその内容を反映し、人間－環境系の歴史的側面等を加え、京都府レッドデータブック2026とした。

なお、京都府レッドデータブック2026は、書籍として発刊は行わず、京都府ホームページ上での公表をもって改訂を行ったものである。

2 調査対象

(1) 対象分野

本調査の対象とする分野は、「野生生物種」、「地形・地質・自然現象」、「自然生態系」とした。

【野生生物種】

①哺乳類、②鳥類、③は虫類、④両生類、⑤淡水魚類、⑥昆虫類、⑦クモ類、⑧陸産貝類、⑨淡水産貝類、⑩その他淡水産無脊椎動物、⑪海産無脊椎動物、⑫維管束植物（シダ・種子）、⑬コケ植物、⑭地衣類、⑮菌類〔担子菌類、子囊菌類〕

【地形・地質・自然現象】

①地形、②基盤地質・鉱物、③被覆層・化石、④自然現象

【自然生態系】

① 地域生態系、②生息・生育地、③人間－環境系の歴史的側面、④自然保護制度

(2) 対象範囲

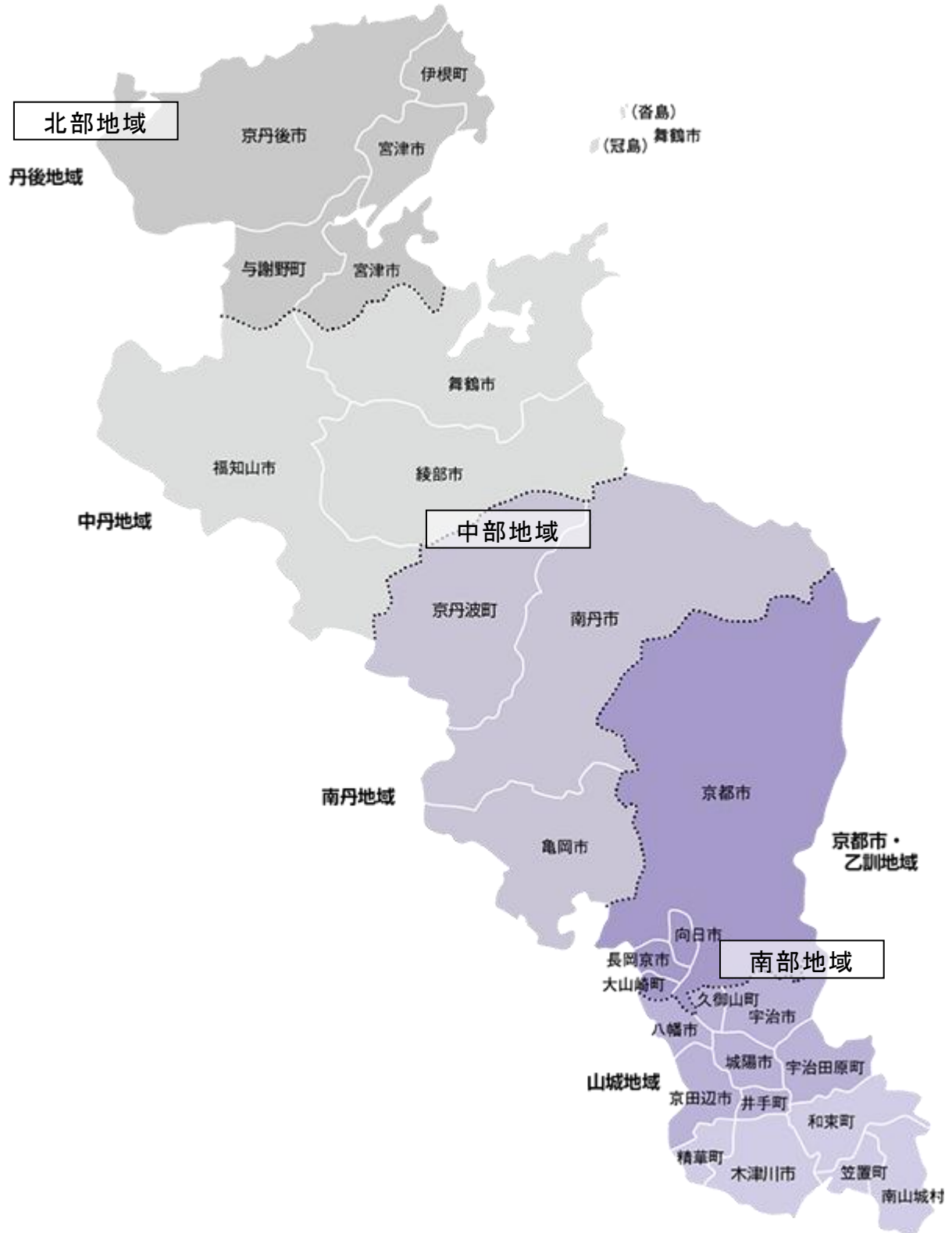
本調査の対象とする野生生物の範囲は、陸産・淡水産生物と、河口・海岸域の汽水産・海産無脊椎動物とした。また、地形・地質や自然生態系は陸域、海岸域までとし、海底の地形・地質や海域の自然生態系などは含まれていない。

(3) 対象地域

本調査の対象とする地域は、京都府全域とした。なお、府内の地域区分の名称は、2023年3月京都府発行の「京都府総合計画」の地域振興計画を参照して、下図のとおりとした。

2026版		2015版	2002版	
地域区分名	市町村名(旧市町村名)	地域区分名	地域区分名	
北部地域	丹後地域	丹後地域	北部地域	丹後地域
	中丹地域			中丹地域
中部地域	南丹地域	南丹地域	中部地域	中部地域
	京都市・乙訓地域			京都市・乙訓地域
南部地域	山城地域	山城地域	南部地域	山城中部地域
				相楽地域

京都府の地域区分



3 調査体制

(1) 京都府レッドデータ改訂検討委員会

京都府レッドデータブック改訂のための調査を実施するに当たっては、調査の総合的な方針や選定、評価の基準、掲載内容などを定める必要があるため、16分野の分科会からなる京都府レッドデータ改訂検討委員会（委員長 村上興正氏）で検討を行った。

(2) 京都府レッドデータ調査者

本調査は、2019年から順次、各分類群及び分野ごとの専門家が調査方針や方法を検討し、文献や標本、現地調査などにより実施したものである。さらに、調査者以外にも多くの研究者や専門家の方に分布情報や資料提供、写真提供のほか、現地調査などの御協力をいただいた。

京都府レッドデータ改訂検討委員会 委員（敬称略）

- ・秋山 弘之 元兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
- ・岩崎 敬二 奈良大学文学部地理学科教授
- ・植村 善博 佛教大学名誉教授
- ・小椋 純一 京都精華大学人文学部総合人文学科教授
- ・角野 康郎 元神戸大学大学院理学研究科教授
- ・近藤 高貴 大阪教育大学名誉教授
- ・佐久間大輔 大阪市立自然史博物館学芸課長
- ・須川 恒 龍谷大学里山学研究センター研究員
- ・鈴木 寿志 大谷大学社会学部教授
- ・高原 光 京都府立大学特任教授
- ・高柳 敦 元京都大学大学院農学研究科准教授
- ・竹門 康弘 大阪公立大学国際基幹教育機構客員研究員
- ・田中 里志 京都教育大学理学科教授
- ・谷垣 岳人 龍谷大学政策学部准教授
- ・中井 克樹 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員（特任）
- ・中尾 史郎 京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授
- ・中村 桂子 公益財団法人日本鳥類保護連盟京都副会長兼事務局長
- ・平井 規央 大阪府立大学大学院農学研究科教授
- ・細谷 和海 近畿大学名誉教授（副委員長）
- ・松井 正文 京都大学名誉教授
- ・光田 重幸 元同志社大学理工学部准教授
- ・武蔵野 實 京都教育大学名誉教授
- ・村上 興正 元京都大学理学研究科講師（委員長）
- ・森 哲 京都大学大学院理学研究科准教授
- ・山本 好和 元秋田県立大学生物資源科学部教授

・横田 岳人 龍谷大学先端理工学部准教授

担当課

京都府自然環境保全課

4 調査方法

今回の改訂では、2015年発行の第2版に掲載された対象がどのように変化したのかを中心に、新たな対象も含めて調査を行ったものである。初版及び第2版と同一の調査者が実施した場合もあれば、新たな調査者が実施し、第2版に加筆修正を加えたり、新たに書き起こした場合もある。これらはすべて、知見の積み上げにより完成したもので、初版及び第2版を執筆いただいた調査者に対しても改めて謝意を表したい。

また、府内の自然環境保全上、特に重要な場所において、野生生物種や地形・地質、生態系の分野を超えて調査を行う合同現地調査について、初版では冠島や修学院離宮、平安神宮など9箇所、第2版では桂離宮（京都市西京区）で実施し、第3版となる今回は、国の天然記念物である深泥池（京都市西京区）及び京都府歴史的な自然環境保全地域である岩戸山（福知山市大江町）の調査を実施した。

なお、京都府レッドデータブック第3版にあわせて、京都府自然環境目録についても改訂を行った。